カブ通信
～巣箱作り
＆講習会に参加して～

Ｎｏ：２　平成２２年１２月３日発行
発行責任者：久保井隊長、執筆：北村副長

巣箱作り完成に近づく
～年明けに設置～

11 月 28 日の隊集会は、最後の仕上げとなる組立作業です。前回の隊集会（14 日）では、指定されたサイズに寸法線を引き、鋸で切断するところまで行いました。初めて鋸を使用するスカウトもいて、最初は力み過ぎ、また、両刃使いのタイプ（縦刃と横刃）は、意味が分からず使用していましたが、岩田・松井ＤＬと今月の担当リーダーである津嶋副長の適切な指示で、徐々に体験から学ぶことができました。一方では、大人の力を借りず、あっという間に切断した風呂田組長の存在は、組員の憧れとなったことと想います。

パーツのやすりがけ

さて、今回も“日頃の行いが良い”？ため、朝から青空に恵まれました。日中は汗ばむような初冬の陽射しの中、切断したパーツをヤスリ掛けし、順番に釘を打って組み立てました。自分の指先を金づちで叩いてしまうハプニングのスカウトも生じ、２ｃｍ程度の釘でもスカウトにとっては、なかなか真直ぐ打てません。瞬間的に力を入れられない年頃なのです。それでも交代で１面に付き約６箇所打ち込み、1 組・2 組ともほぼ出来上がりました。ところが、屋根を斜めに被せるために、隙間ができてしまう組もあり、残作業は組集会か隊集会の時間を割いて完成しなければなりません。具体的な日取りが決まりましたらお知らせします。

バードコールコンテスト

28 日の隊集会では、バードコールコンテストを行いました。14 日の隊集会で各自、丸棒を ６ｃｍに切断しリーダーで穴を開けた所まで終え、それを持ち帰り、自分の思いをデザインにして持ち寄りました。たくさんの鳥が羽ばたく図柄もあれば、スカウト章の図柄、絵とシールを組み合わせた図柄など、どの作品からもスカウト一人ひとりの思いが込められていると感じ取れました。

リーダーで厳正なる審査を行った結果、絵の具で色付けをして表面をニスで塗装して長持ちできる菅野スカウトが優秀となりました。表彰式で、デザインの由来を隊長から聞かれ、ヒヨドリをイメージした色合いだと説明がありました。

作って終わりではなく、実際に鳥と会話できるかが腕の見せ所なのです。自宅近くの公園、五反田川や多摩川に行けばたくさんの鳥がいます。“キュッキュ”と鳴らして、鳥の反応を観察して下さい。お父さんお母さんの協力をよろしくお願いします。道路では、必ず歩道で行って下さい。ついつい夢中になりがちです。

落ち葉のジュータンから『野外活動』を考える

前回の巣箱のパーツ作りの際には、まだ緑色をしていた銀杏の葉が、28 日の集会では、雪のようにヒラヒラ落ちてきて、一面銀杏の葉で覆われていました。集会が終わって間もない頃、早速かき集めて制服姿のままフカフカの葉に包まれて遊んでいるスカウトがいました。ただの落ち葉でも、純粋な心で夢中になれるのです。

私たちが普段活動する三田・生田周辺も大規模マンションが建設されるなどの都市化が進み、緑が貴重な存在となっていますが、身近な公園で、秋から冬に季節が移り変わる一場面に出くわし、自然と触れ合うことの大切さを再認識させられました。先輩指導者から、「野外活動なくしてスカウト教育とは言わない」と言われたことがあります。自然体験学習と称して、今では夏休みや冬休みを利用して、都会を離れ、遠くの山や川といった大自然に繰り出す体験ツアーがたくさん商品化されています。値段を見るとかなり高めに設定されているように感じます。飯合炊飯、

テント泊、農業体験、カヌーなどなど、様々な体験活動が掲載されていました･･･ボーイスカウトが得意分野ではないでしょうか。学校行事では５年生になると林間学校で八ヶ岳少年自然の家に行き、野外体験活動を実施します。ボーイスカウトは、異なる年齢で組（ボーイ隊になれば班）を作り、リーダーシップを発揮させていく班制教育を取り入れ、なおかつ、ビーバーからローバーまで５つに部門を分けて、それぞれの年代に応じた特性を活かした活動を行っています。一面に輝く星空、冷たい川や沢の水、鳥や虫の声、時には雷の音... 野外でしか体験できない活動をこれからも取り入れていきたい、野外活動の重要性を感じた一日となりました。

ボーイスカウト講習会に参加しました

巣箱組立てを行った同じ 28 日、東京連盟町田地区が開設するボーイスカウト講習会に若島さんと菅野さんが参加されました。この講習会は、ボーイスカウト運動の概要やスカウト教育の原理と方法について知ることを目的に開設されています。

４６団が所属する神奈川連盟は、日本連盟が定める１日で終了するカリキュラムに加え、隊集会やキャンプファイアといった体験学習を重んじて、２日型（1 泊 2 日又は日帰り 2 日型）となっており、小さい子供を持つ保護者の参加が得られにくいこと等、講習会への参加が伸び悩む要因にもなっていました。

一方、東京連盟は日本連盟に基づいており、当団としてできるだけ多くの保護者の方に参加してもらい、スカウト運動の理解者を増やしていくことが、スカウト増加のきっかけとなると考えて今回の試みとなりました。
お二人に参加した感想を寄せてもらいました。

私がこの講習会の中で一番楽しく感じたのは、様々なことを発見出来た自然公園内のハイク体験です。ハイクは、6 班（1 チーム約 7 人で構成）に分かれて実施され、コース内に設けられたポイントでは様々な試練が待っています。

我が班は、現 RS・指導者になる方・BVS のトレーナーになる方・保護者父母と肩書きは様々で、素人の私には分からない事（コンパスで方角を調べ、ロープワークや用語など）は、現 RS の方や、講習会指導員の方が丁寧に教えて下さいました。特に感心したのが、追跡ハイクの時に有効な「パトローリング」です。

また、このハイクを行うにあたり沢山の方々の支援、安全面に対する気配りにも驚かされました。各ポイントの試練をクリアするごとに初対面だった班の仲間が、同じ目標に向い団結していく様子が楽しくもあり、また、BVS・CS 体験をした時は、息子達と同じことをしている（自分が童心に返っている）ことに気づき笑ってしまいました。

ボーイスカウト運動は社会に役立つ運動であり、成人の参加と支援が必要なこと、そしてその関わり方とスカウト活動の安全について、この講習会で講義と体験により学ばせて頂きました。講習会と聞くと誰でも身構えてしまいますが、私は今回参加してみて凄く貴重な体験が出来て良かったと思っています。

この先 DL として団委員として色々な形で関わっていきますが、この講習会で学んだことを少しでも実践出来たらと思っています（若島）。

講習会当日は、雲一つない良いお天気でした。講師の方々に、ボーイスカウトの信念や、教育について詳しくお話を伺い、普段スカウト達が行っているようなハイクや活動を実際に体験して来ました。

ハイクは、最後まで歩ききれるか不安でしたが、初対面の方とのグループで、慣れないながらも、コミュニケーションをとり、力を合わせて、チームでミッションをクリアし、最後ゴールしたときの達成感、表彰された喜びは、大人でも、とても大きいものでした。

子供達が毎回の活動に、この喜びや達成感が、子供の自信や、やる気につながっているのだと確信できました。また、ご指導くださいました主任講師の方をはじめ、講師の方々の熱意あるお話しに、圧倒されました。子供の成長に魅力あるこの活動を通して、親として今後も子供達を支えながら見守っていきたいと思います（菅野）。

私がうさぎの時に辞められた副長の言葉「継続は力なり」が今でも忘れられません。人間の力は大自然の中では微々たる物です。個人では成しえない物をチーム・仲間と取組めば、何倍もの力で達成できます。山あり谷ありの人生... 日本人の平均寿命は男性 80 歳、女性 86 歳と言われています。一つのことに打ち込んでいく、それが何事であっても継続していくことで、心に優しさや人として豊かな感性が持てるのかもしれません。